資料紹介

光専寺文書について

中村知裕

はじめに

佐賀県内各地に所在する中近世文書は、佐賀大学の三好不二雄氏を中心に戦後、包括的な調査・研究が進められ、その全容は『佐賀県史料集成』で随時紹介された。それ以後は、様々な種類の近世文書の分析が進められており、その中で中世の写がいくつか紹介されている状態にある。[1] おそらく、佐賀県内には未だ知られていない文書が多く残されていると推測され、今後の成果が期待される。[2]

本稿で紹介する光専寺文書は、写でない中世文書がいくつか見られる珍しい事例であるといえる。光専寺文書を所蔵する光専寺は、佐賀市寺井に鎮座する浄土真宗本願寺派の寺院で、戦国期に創建されたという。代々住職を務める甲斐氏について、光専寺文書の一つ「甲斐之系図」(ママ)(目録の№1)では、甲斐国武田氏の流れを引くものとして記している。しかし、初代住職である教明について見ていくと、「甲斐神四郎　肥州佐賀郡寺井光専寺開基」とあり、また「天文年中、従肥後来住、於肥前同年中末、為出家」とある。すなわち、戦国期の天文年間(一五三二～一五五五)に肥後の甲斐神四郎が肥前佐賀郡寺井に移り住んで出家して教明と名乗り、光専寺の開山になったと記されている。肥後には阿蘇氏の重臣として甲斐氏の存在が知られているが、光専寺文書の中には後述するように、大友氏の重臣が甲斐民部入道に対して発給した連署書状(№4)が見られる。このことから、住職の甲斐氏は甲斐武田氏ではなく、むしろ肥後甲斐氏の流れを引くものと思われる。しかし、肥後甲斐氏の一族がなぜ肥後から肥前に移り住み、そしてどのような経緯で光専寺を開山したのか、その経緯は今のところよくわからない。今後、甲斐氏の系譜に関しては光専寺文書を読解することにより、明らかにする必要がある。

その甲斐氏が所蔵する光専寺文書は佐賀県内では既に知られており、昭和期において『諸富町史』[3]や太田順三氏の研究[4]で文書の一部が紹介されているものの、その全容は未だ明らかにされていない状態にある。特に太田氏は戦国期肥前の地域社会の状況を明らかにする上で、光専寺文書を一部用いていることから、光専寺文書は中近世の肥前における地域社会を理解する上で、また地方寺院の存在意義や経営状況を明らかにする上で、重要な手掛かりになるものと思われる。

そこで本稿では、現段階における光専寺文書のおおまかな概要を示すとともに、その歴史的位置を確認する作業を進めていきたい。

なお、この文書の名称について、太田順三氏は戦国期の文書のみを考察しているため、「甲斐氏所蔵文書」と名付けている。しかし、光専寺に所蔵されていること、さらに近世も含めて総合的に文書の内容を見ていくと、

後述するように、寺院の経営に関するものが多いことなどから、本稿では「光専寺文書」と名付けて論を進めていく。

一、光専寺文書の調査

筆者は光専寺文書の原本調査に先立ち、まず写真帳もしくはマイクロフィルムの存在を確認することにした。そこで佐賀県内の古文書のマイクロフィルムや写真帳を多く有する佐賀県立図書館のホームページにアクセスしたところ、写真帳を所蔵していることがわかった。その後、筆者は佐賀県立図書館に問い合わせて、許可を得た上で写真帳の内容を確認した。

この写真帳は、昭和六一年（一九八六）に佐賀県立図書館の職員が光専寺に赴いて調査したものであり、中近世文書合わせて計三六通もの文書の写真とその一覧表を掲載している。また、佐賀県佐賀郡諸富町（現佐賀市諸富町）も、『諸富町史』編纂の際、光専寺文書の調査を行っていた。光専寺には、そのことを示す新聞記事の切り抜きや、「諸富町役場」と記された封筒が残されている。その封筒の中には、佐賀県立図書館が調査した文書が主に収められていた。

筆者は県立図書館で写真帳を確認した後、住職甲斐正文氏の取り計らいにより光専寺の原本調査実施の許可を得た。後日、筆者は光専寺を訪ねたところ、文書は寺院の一角の建物の押し入れの中に三つの箱に分けて収蔵されていた。一つ目の箱には、諸富町の封筒に文書が収められていた。そして、二つ目の箱には主に昭和六一年に佐賀県立図書館が調査した文書が収められていたが、一つ目の箱の奥底にはこれまで調査されていない文書が多数見られた。

そこで一つ目の箱の奥にある文書を取り出して調査した結果、その数はおよそ一〇三通にものぼり、いずれも近世文書であることがわかった。結果、光専寺は計一三九通もの中近世文書を所蔵していたことになる。

これまで調査した佐賀県立図書館や諸富町の職員も、おそらくその存在に気づいていたと思われるが、なぜ調査の対象としなかったのか、その理由はよくわからない。三つ目の箱には明治期以降の近代文書が見られたが、その数量も膨大で、かつ時間の都合もあり、今回は調査の対象としなかった。従って、未調査の状況はあるものの、明治以降の文書を含めると、光専寺文書は中世・近世・近代を合わせて二〇〇点以上にのぼるものであったと推測される。

こうした調査結果を踏まえて、本稿では佐賀県立図書館・諸富町が調査した三六通を改めて見ていくとともに、新たに発見した近世文書一〇三通の全容を明らかにしていきたい。

二、内容

光専寺での原本調査後、筆者は撮影した写真をもとに目録を作成して、近世文書の専門家である福岡市史編纂室の八嶋義之氏にチェックをしてもらった。それを示すのが後述の目録であり、これにより近代をのぞく、中近世文書の全容を示すことができる。この目録をもとに、文書の内容を主に二つの時期に分けて、その概要を示していきたい。

1　戦国期～江戸初期

光専寺文書は、全体的に見ると戦国期の天文年間を皮切りに江戸末期は

慶応年間まで幅広く残されている。その中でも本節では中近世移行期にあたる戦国期から江戸初期に至る文書を見ていきたい。中近世移行期はいつまでか明確に規定されていないが、本稿では仮に江戸幕府が成立した慶長年間と定めて論を進めていく。具体的には目録No.2～12までの一一通の文書を対象とする。

戦国期の文書については、まず大友氏老中連署書状（No.4）について触れなければならない。この文書は甲斐氏が大友氏に忠節を尽くしていることを大友氏の老中（重臣）が賞したものであるが、署名にある老中の構成から永禄年間に発給されたものと思われる。[5] 宛所には「甲斐民部入道」とあることから、阿蘇氏の重臣甲斐親直（宗運）のことを指すものと思われる。そうなると、この文書の存在から、住職甲斐氏は肥後甲斐氏の一族であったと思われるが、具体的にどういったつながりがあったのか、この文書からはわからなかった。

戦国期天文年間には、佐賀郡川副荘の村落共同体の責任者によって構成される「嗜中」によって発行された文書とその写、計二通が残されている（No.2・3）。この文書はいずれも同じ内容であり、光専寺は何らかの目的があって写（No.3）を作成したと考えてよい。太田順三氏は、この（No.2）から、川副荘内における公役の認定に「嗜中」が関わっていたことを指摘している。[6] また、（No.2・3）では公役地である屋敷を、「嗜中」が確認した上で、甲斐神四郎（後の光専寺開山教明）に与えるとしている。これを踏まえると、甲斐氏が寺井に光専寺を開山した背景には、川副荘内の「嗜中」の存在があった可能性が見出せる。したがって、天文年間の文書は、甲斐氏が寺井に移住した経緯を示す極めて重要な文書であったと考えられる。そのため甲斐氏もこの文書の写を作成したと推測してよい。

天正・慶長年間には、光専寺開山である教明と二世住職の宗円の存在を確認できる文書が存在する。例えば、天正一三年（一五八五）に教明は文書を二通発給しているが（No.5・6）、その内容は、いずれも教明が有していた遣町屋敷の敷地を三つに分けて、子の刑部丞（後の二世住職宗円）と金七郎にそれぞれ与えるというものである。この内容を踏まえると、金七郎も宗円と同様に教明の子であった可能性が高い。

その宗円に関しても、慶長三年（一五九八）に新介という人物に「やしきのかまと分」を「なみ銀十匁」で売り渡す文書がある（No.11）。ここでは「なみ銀」の存在が確認できるが、別の文書（No.12）でも油船を「上銀三拾匁」で売り渡す文書が見える。中世肥前地域における銀の流通に関しては、鈴木敦子氏の研究がある。これによると、鉄砲に使用する煙硝の購入など、権力層によって使用されたとしている。[7] これに加えて、右に挙げた事例を踏まえると、近世初期になると、肥前地域では南蛮との交易による煙硝の購入のみならず、銀が様々な用途に、かつ多くの階層で使用されていたことになる。

また、宗円に関しては、慶長一七年（一六一二）に魚町居屋敷に関して、七作という人物を「おとな」に任命する文書（No.10）が残されている。「おとな」とは、一般的に村の代表者を指すが、この文書の内容から「おとな」を村の代表者と判断することは難しい。同時にこの文書から、宗円は寺院周辺地域の経営に関わっていた可能性を見出すことができる。

2　江戸期

本節では、江戸期の文書について論じていくが、ここでは新たに発見した文書を中心に見ていきたい。具体的には後で示す目録のNo.1およびNo.13

【表１】　光専寺文書分類（近世のみ）

№.	形態	分類	内容	点数
1	一紙文書	覚	寺物関係	5
			屋敷・田地の寄進・売却	9
			金銭関係	16
			その他	9
		証文		8
		沽券		11
		一札		8
		書状		12
		免書・免許		6
		達書		3
		その他		15
2	帳簿			14
3	冊子			3
4	包紙のみ			9

以降の文書がこれにあたる。なお№.1の系図は江戸期嘉永年間の住職の名前を記していることから、近世文書に含めることにする。

まず近世文書を形態別に分類すると、一紙文書が一〇二通、帳簿が一四冊、冊子が三冊、包紙のみが九枚となる。

これらの分類を表したものが、【表1】である。

これによると、まず一紙文書の中でも「覚」が三九通と圧倒的な数を占めていることがわかる。【表1】ではその「覚」の内容をいくつかに分類している。ここでは特に「飛擔列座」に着目していきたい（№.105・114・116）。「飛擔列座」とは、本願寺で行われる仏教行事のことであり、光専寺住職はこれに参加することを認められたことになる。これに関して、【表1】の免書・免許状に着目すると「飛擔列座」の免許が見られる（№.66）。その発給者である下間氏は光専寺の本寺である本願寺の坊官である。すなわち、専光寺住職は本願寺より免許状を得たことになる。これに対して、「覚」の「金銭関係」に着目すると、光専寺側も「飛擔列座」の許可をもらった見返りとして、本願寺に銀子を支払ったこと（№.105）、さらに金を借用していたことを示す文書を確認することができる（№.118・119・120・121）。

また、光専寺文書では、佐賀藩における本願寺教団の中心である願正寺との関わりを示す文書もいくつか見られる（№.39・42・51・64・89・118）。こうした本願寺と願正寺とのつながりを踏まえると、光専寺文書は近世における本末制度の実態を明らかにする上で重要な史料になるものと思われる。

「覚」の部分では「飛擔列座」など仏教関係の文書の他、「土地寄進」（№.52・53）・「売買」（№.49・50・71・78）に関する文書が見られる。前章では光専寺が村落共同体に認められることにより寺院地を得ることができたことを指摘した。江戸中期になると、光専寺が鎮座する寺井周辺の人々と屋敷・土地を売買したことを示す沽券状が一一通（№.17・43・55・56・70・74・76・77・80・81・84）残されている。その沽券状の分布は、江戸時代全般に及んでいるが、特に一八世紀初めから半ばにあたる、宝永（一七〇四～一七一一）・享保（一七一六～一七三六）・延享（一七四四～一七四八）年間に集中していることがわかる。これらの文書では、屋敷地の面積は記されているものの、どこの地を寄進・売却するのか具体的地名が記されていないものが多い。この時期、光専寺は寺井及びその周辺に多くの土地を集積していたことになるが、同時に佐賀藩の知行制において何らか

の事態が生じていた可能性も考えられる。

また、「覚」（№19・68・82・83・88・97・98・99・100・101・105・106・108・111・114・115）・「証文」（№39・51・67・69・86・113・129）・「一札」（№54・118・119・120・122・125・126・127）の中には、金銀のやり取りに関する文書が多く見られる。これに関しては先に「飛檐列座」を認められた御礼として、西本願寺に金銀を上納したことを指摘した。ところが、浄安寺などの周辺寺院や本願寺から「飛檐列座」など諸費用の調達のために金銭を借りていたことを示した文書も多く見られた。しかも、金銭のやりとりに関する文書は、嘉永（一八四八～一八五五）・安政（一八五五～一八六〇）など一九世紀の幕末期に多く発給されていることが確認できる。一八世紀半ばには周辺の人々から多くの土地や屋敷を集積していた光専寺が、なぜ一九世紀に入り、金銭を借りる事例が増加したのか、今後、明らかにするべき課題となろう。

最後に【表1】の「その他」の部類に入れた文書のうち、特徴的なものをいくつか挙げておこう。まず鎌倉末期の正和元年（一三一二）六月三日付西園寺実尊の覚書（№21）について述べておきたい。この文書は鎌倉期における西園寺家の活動をまとめたものであるが、そもそも西園寺実尊という人物の存在を西園寺氏の系譜から確認することはできない。[8] そうなると、この文書は偽文書であると思われるが、なぜこの文書を光専寺が所蔵していたのか、その経緯はよくわからない。

「その他」の部分では、文政二年（一八一九）一一月八日、筑前鐘崎（福岡県宗像市）にアザラシが現れたことを報じた文書（№95）も存在する。この文書ではアザラシの特徴を記すばかりでなく、アザラシそのものの絵を描いている。そうなると、光専寺の関係者が実際に鐘崎を訪れてアザラシを見たのか、また刷り物や手紙、写本等から書き写したのか、その点については記していない。

【註】

（1）これに関しては、堀本一繁「永野御書キ物抜書」（武雄市図書館・歴史資料館編『戦国の九州と武雄　―後藤貴明・家信の時代―』二〇一一年）。」のほか、拙稿「「多久家有之候書類」について」（『佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要』四号　二〇一〇年）、同「「藤龍家譜」所収文書について」（『佐賀大学地域学歴史文化研究センター研究紀要』一四号　二〇一九年）がある。

（2）筆者の知る限りでは　嘉瀬川ダム建設に伴う学術調査委員会編『嘉瀬川ダム建設調査に伴う学術調査報告書』（富士町教育委員会　二〇〇〇年）が挙げられる。

（3）『諸富町史』（諸富町史編纂委員会　一九八四年）。

（4）太田順三「北部九州の戦国大名領下の村落とその支配―大内・龍造寺氏の権力構造論序説―」（『佐賀大学教養部研究紀要』一五　一九八三年）。

（5）橋本操六「大友氏奉行人の変遷と時代考証」（『豊日史学』二七・二八　一九六〇年）。

（6）太田氏前掲注（4）論文　一九頁。

（7）鈴木敦子「肥前国内における銀の「貨幣化」」（同氏著『戦国期の流通と地域社会』同成社　二〇一一年）一九五頁。

（8）本稿では特に『尊卑分脈』（新訂増補国史大系　吉川弘文館）、『公卿補任』（新訂増補国史大系　吉川弘文館）、橋本政宣編『公家事典』（吉川弘文館　二〇一〇年）で確認したものの、「西園寺実尊」の存在を確認することができなかった。

【追記】福岡市史編纂室の八嶋義之氏には、目録の確認の際、ご協力いただいた。この場をかりて御礼申し上げたい

【凡例】

一　本目録は光専寺中近世文書一三九通をまとめたものである。

一　文書の配列は基本的に光専寺の箱に入っている順番である。

一　漢字の字体は、常用漢字表や人名漢字表に則った。それ以外の漢字（いわゆる表外

漢字）や変体仮名は適宜処理した。

一　校訂者の加えた注の内、説明注には（　）を用いた。

一　目録中の〔　〕は、判読できなかった文字、異体字など、活字として再現出来なかった文字や号を表している。

光専寺文書目録

No.	資料名	差出人	宛名	年月日	1986年調査分	数量	備考
1	甲斐之系図			(嘉永年間)	○	1枚	書き加えあり
2	香田新兵衛他９名連署書状(屋敷を甲斐神四郎に与えることについて)	香田新兵衛他９名		天文17年申戌正月11日	○	1枚	
3	香田新兵衛他９名連署書状写	香田新兵衛他９名		天文17年申戌正月11日	○	1枚	No.２の写「甲斐神四郎追書」とあり
4	大友氏老中連署書状	吉岡宗歓他３名	甲斐民部入道	(永禄年間)２月11日	○	1枚	
5	光専寺教明譲状(屋敷の分配について)	教明	(甲斐)形部丞	天正13年３月26日	○	1枚	No.10に貼り付け
6	光専寺教明譲状(屋敷の分配について)	教明	金七郎	天正13年３月28日	○	1枚	
7	河副荘地下者中連署証文	宮原東市佐他６名	甲斐刑部允	天正14年丙戌６月12日	○	1枚	
8	多久安順・鍋島茂里連署達書写（真宗西派中への達3ヵ条）	主水佑(鍋島茂里)判・長門守(多久安順)判	御領内惣御門下中	慶長14年５月11日	○	1枚	No.47と関連するヵ
9	内蔵介他２名連署証文(魚町居屋敷について)	内蔵介・鏡真・宗円	七作	慶長17年５月７日	○	1枚	
10	町大炊・井宗休連署証文(銀壱貫200目の支払い証文)	町大炊・井宗休	油屋孫右衛門	慶長18年５月19日	○	1枚	No.５に貼り付け
11	光専寺宗円証文（屋敷かまど分の売り渡しについて）	宗円	新介	慶長３年12月８日	○	1枚	
12	神吉郎証文(油船の売り渡しについて)	神吉郎	七作	慶長17年５月７日	○	1枚	
13	覚(光専寺歴代住職について)	宗信？若恩？		宝暦10年以降		1枚	
14	下間宮内卿書状（七高僧・太子御真影への御印判・御染筆について）	下間宮内卿仲雪(花押・黒印)	光専寺慶讃	寛文３年癸卯５月４日	○	1枚	包紙あり
15	下間宮内卿書状（七高僧・太子像への御染筆について）	下間宮内卿仲雪(花押)	光専寺惣御門徒衆中	(寛文元年ヵ) 丑８月２日	○	1枚	折紙、包紙あり
16	官途書出(法橋叙任について)	霊元天皇主殿頭兼左大史小槻宿祢(花押)	藤原（中御門）資熙	延宝５年12月13日	○	1枚	
17	裏屋敷沽券状(裏屋敷を銀50匁で永代売渡)	売主源五左衛門他７名	光専寺	貞享３丙寅年７月５日	○	1枚	
18	池永主税書状(絹袈裟の許可)	池永主税三雅（花押）	光専寺慶三	元禄７年戊２月27日	○	1枚	包紙あり
19	覚（阿弥陀如来像免許にかかる御礼銀について）	蓮生寺（花押）・専光寺（花押）	光専寺・原口四郎左衛門殿・井上善之丞殿	元禄14年辛巳11月11日	○	1枚	
20	本尊再興記	護命山主慈航益翁		元禄15年	○	1冊	
21	西園寺実尊覚書	西園寺前大納言〔□□〕入道釋実尊(花押)		正和元年巳６月３日	○	1枚	偽文書の疑義あり
22	〔覚〕(万行寺空両（性）の法脈であることなどについて)			(嘉永年間)	○	1枚	人名として「藤明」「大良（郎）四郎」「神四郎」が見える
23	覚(光専寺所有の御免物について)				○	1枚	前後欠　聖徳太子・親鸞・良如の御影
24	某（須磨）書状	須磨	朝（都？）臣様		○	1枚	包紙（端裏書）に「宗茂公御筆自被遊被為〔　　〕」とあり
25	某書状			３月14日		1枚	差出人・宛名の記述なし
26	包紙	鍋島摂津守	檀越中		○	1枚	包紙のみ
27	過去帳			享和３年２月朔日	○	1冊	

No.	資料名	差出人	宛名	年月日	1986年調査分	数量	備考
28	宗門檀那帳			文政12年２月	○	1冊	
29	宗門檀那帳			天保12年２月	○	1冊	
30	宗門檀那帳			弘化４年２月	○	1冊	
31	宗門檀那帳			安政６年２月	○	1冊	
32	宗門檀那帳			安政？年２月	○	1冊	
33	過去帳				○	1冊	
34	過去帳序				○	1冊	
35	勝茂公御年譜６～10			安政４年５月上旬写	○	1冊	
36	年中雑記録			（弘化年間）	○	1冊	文政９～12年、天保15年、弘化２年の文書をおさめる
37	覚（光専寺の御免物について）	光専寺判	明円寺殿	享保13年卯月22日		1枚	裏にも覚の記述あり
38	松平越中守達書写（宗規の保持について）	松平越中在判	諸宗寺院	寛政４年子９月		1枚	浄土真宗本願寺派の宗規の保持を好例として挙げる
39	淡川土佐守証文写（諸事免許について）	淡川土佐守在判	願正寺本原御房	文化８年５月		1枚	併せて寛政年間の諸事免許の次第を記す。淡川土佐守は徳大寺家家臣
40	義純達書写（日頃の心構え、外出の際の門限、飲食に対する決まり）	沙門義純		享和３年亥７月25日写之		1枚	後欠ヵ
41	願文写	（徳川家康）		元和２年丙辰２月12日		1枚	大樹寺文書の写しヵ
42	徳大寺前内大臣殿御直筆免許状写（猶子の件について望み通り免許のこと）	（徳大寺実堅）	願正寺本原御房	文化８年５月７日		1枚	
43	奉寄進沽券状覚（屋敷２カ所の寄進証文）	坂本五平次（黒印）	光専寺様	延享２年丑６月６日		1枚	
44	覚（歴代住職の感得物について）					1枚	寛保元年、宝暦11年の感得物の記述あり
45	寺井光専寺申物之次第（蓮如御影の裏書所望書類の写のこと）					1枚	No.23の断簡ヵ
46	覚（光専寺所有の御影について）			（元禄年間）		1枚	前後欠　No.23の断簡蓮如・七高僧の御影。光専寺慶三の名あり
47	書状写（領内真宗の西派への統一と願生寺を触頭とすることについて）	（鍋島）勝茂様御判	領内門徒中	（慶長期）６月21日		1枚	No.８と関連するヵ
48	本堂普請方ニ付尽立帳（寄付簿）	光専寺		弘化4未年		1冊	
49	覚（屋敷売却について）	油小路山崎十兵衛	光専寺	正徳元年卯ノ９月10日		1枚	下書きヵ
50	覚（質地畠屋敷の返却について）	新名久左衛門（黒印）	油小路七兵衛殿	享保５年子ノ12月２日		1枚	
51	証（御遠忌のための寸志金の受領証）	願正寺役所（黒印）	寺井光専寺御同行中	（年未詳）４月10日		1枚	
52	覚（田地１段の永代寄進について）	石塚村徳兵衛悴五郎助（黒印）他４名連署	光専寺御住持	享保14年酉２月８日		1枚	
53	為重村之内田地覚（田地１段５歩寄進地の覚）	為重村耆治部左衛門（黒印）他２名連署	光會（専の誤り）寺	享保20年卯７月		1枚	
54	実子請合一札（東岳の実子であることの請合証文）	肥前国佐嘉郡浮盃村妙光寺僧岳	御本山御役人中様	安政３年４月		1枚	
55	売渡沽券覚（屋敷27間の売渡）	石橋新兵衛（黒印）他６名連署	光専寺	文政４年巳３月		1枚	

No.	資料名	差出人	宛名	年月日	1986年調査分	数量	備考
56	元文五年大詫間村田地永代売渡估（沽）券状(代銭270目で売渡)	本人 左馬之允（黒丸）・存人次右衛門（花押）	〔勝ヵ〕右衛門	(元文５年)12月２日		1枚	
57	書状写（公方様へ扇子献上のこと）	本門光常（花押）	秋元但馬守殿・本田伯耆守殿・大久保加賀守殿・井上河内守殿	(年未詳)６月16日		1枚	
58	免許状（一代綟子衣・花色緞子輪袈裟の着用免許）	取次 嶋田左兵衛権大尉	光専寺東岳	天保８丁酉年11月22日		1枚	
59	書状（御真影の拝領と二の丸での拝覧について）	願正寺壽應（花押）	隠光専寺	３月３日		1枚	
60	包紙			寛文元年８月朔日		1枚	No.61の上半分　七高僧の掛幅の包紙ヵ
61	包紙	取次 宮内卿	光専寺慶讃	(寛文元年８月朔日)		1枚	No.60の下半分
62	包紙			延宝４丙辰年２月朔日		1枚	良如の掛幅の包紙ヵ
63	包紙			延宝４年丙辰年２月朔日		1枚	御開山様の掛幅の包紙ヵ
64	達（申入金先納のため、願成就まで飛檐次席のこと）	願正寺（黒印）	光専寺住持義仙	寛政９年巳８月21日		1枚	
65	大蛇済度御名号			３月28日		1枚	聖徳太子御木像縁記の記述あり。※史料は途中抜けあり
66	免許状（一代飛檐列座・永代継目）	下間大蔵卿法眼頼恭（花押）	光専寺南詢・門徒中	慶応３丁卯年５月10日		1枚	折紙
67	奉拝借金子之事（金11両の借用証文）	光専寺南詢（黒印）・門徒惣代忠太夫（黒印）	御本山御貸付所御役人御衆中	安政３丙辰年４月		1枚	
68	覚（白筈３石の預かり証文）	石塚村庄屋利兵衛（黒印）	光専寺様	亥11月		1枚	
69	奉拝借金子之事(金11両の借用証文)	肥前国佐嘉郡寺井村光専寺東岳（花押）・門徒惣代松本伊太郎（黒印）	本山御貸付所御役人御衆中	嘉永元戊申年４月		1枚	
70	永代屋敷売渡沽券(屋敷22歩の売渡)	永藤太郎右衛門・五人組惣介（黒印）他３名連署	慈航様	享保９年辰ノ２月		1枚	
71	覚（屋敷裏敷地売却について）	油小路折口久兵衛（黒印）	光専寺	宝永５年子ノ極月18日		1枚	
72	書状（屋敷道について）	八田多兵衛	光専寺様	(宝永２年)７月11日		1枚	裏書に「宝永二年七月十一日ニ相澄申候」の記述あり
73	覚（敷地割方について）	護命山光専寺義仙（花押）	地引合役主副嶋祐之進・馬渡作兵衛・蒲原惣右衛門・別当井上善之允	寛政３年亥３月14日		1枚	
74	奉寄進沽券状覚（屋敷地１畝３部半の寄進）	寄進主別当前田弥次兵衛他７名連署	光専寺様	延享２年丑６月18日		1枚	
75	書状（屋敷の寄進経緯について）	光専寺慈航（花押）		享保15庚戌年12月25日		1枚	
76	売渡沽券状之事(屋敷地を代銭227分で売却)	売主山崎七兵衛（黒印）・五人組太郎右衛門（黒印）他４名連署	光専寺	享保６年辛丑正月12日		1枚	
77	奉寄進沽券状覚(屋敷地の寄進について)	寄進主古賀延右衛門（黒印）	光専寺	延享２年午６月		1枚	
78	覚（屋敷地売却について）	俗名庄三郎正西（黒印）、浮盃津右甥久太郎（黒印）	光専寺	宝永５年子９月25日		1枚	
79	鹿島赤童子神預略縁起	鹿島太神宮不断経所・小神野山無量寿院広徳密寺				1枚	

No.	資料名	差出人	宛名	年月日	1986年調査分	数量	備考
80	売渡申沽券状之事(屋敷の売渡について)	売主福右衛門（黒印）・大木与市左衛門（黒印）	光専寺様	寛保３年癸亥12月		1枚	
81	永代売渡沽券状(屋敷の売渡について)	売主右衛門（黒印）・五人組久左衛門（黒印）他４名連署	慈航師	享保10年巳ノ３月16日		1枚	
82	覚（貸付金返済遅滞による滞利金について）	御貸付御用達所（黒印）	肥前国佐賀郡平井村光専寺	(安政２年）卯２月		1枚	
83	覚（金10両で受取の証文）	光専寺（黒印）	浄安寺崇信耆年	嘉永元戊申年５月		1枚	
84	永代売渡沽券状(屋敷20歩の売渡について)					1枚	屋敷弐拾歩売渡の断簡、下書きヵ
85	摩訶止観巻第一					1枚	「止観輔行伝弘決巻第一」の一部を記述
86	屋敷永代売渡証文(屋敷を銀350分で売却)	屋敷売主近左衛門（黒印）	光専寺	享保15年戊ノ12月12日		1枚	No.84の後半ヵ
87	狂歌	浮雲				1枚	「水の面にうかみ流るゝ盃にふしの高根を町中て見る」
88	覚（苗跡相続につき金貸し付けの証文）	本帰依寺西安寺（黒印）・存人西村左平次（黒印）	樋口清助殿	嘉永２年酉２月		1枚	包紙に「手形入」の記述あり
89	御免書（一代金入唐草竹屋町裂輪袈裟免許）	池永大隅介（黒印）	願正寺殿門徒肥前国佐賀郡寺井村光専寺東岳	嘉永元戊申年４月13日		1枚	包紙に「御免書」の記述あり
90	書状（御影・身附願が済んだので、一代飛檐への認め直しを願う）	間宮半十郎好正（花押）	光専寺様	４月晦日		1枚	
91	祠堂米根居帳写	光専寺		天保８年酉10月		1冊	
92	祠堂米根居帳	光専寺執事		文政９年戌12月改		1冊	
93	祠堂利米請取帳	光専寺納所		文政９年戌12月		1冊	
94	包紙					1枚	「祠堂銀手形」の記述あり
95	雑記（筑前鐘崎アザラシ出現について）			(文政２年11月)		1枚	アザラシの絵あり
96	書状(本願寺阿弥陀堂再建につき金10両奉加について)	上田主殿（黒印）・下間宮内法眼（黒印）・下間少進法印（黒印）	肥前寺井光専寺	５月20日		1枚	
97	覚（祠堂米請取手形）	光専寺（黒印）	村岡藤兵衛殿	申12月		1枚	「手形」の記述あり、包紙あり
98	覚（銀請取証文）		中村半兵衛（黒印）、其外	子閏８月		1枚	
99	覚（請取の祠堂米の内訳）			申７月		1枚	祠堂米請取に関するものカ
100	覚（待勧離縁につき差し戻しの持参銀落手のこと）	光徳寺泰忍（黒印）	光専寺様	亥２月		1枚	
101	覚（銀請取証文）	本坊役寺一行寺（黒印）	光専寺	11月		1枚	
102	覚（遠路のため宮地次兵衛死去の際の引導・結縁依頼）	光専寺	円成寺	申10月		1枚	
103	覚（森加兵衛・同女房の光専寺担帳への加入について）	円光寺（黒印）	光専寺	酉２月		1枚	「肥前国佐賀郡川副庄寺井村　光専寺　池永主税」の記述がある包紙あり
104	覚（御免物や官職、その他上納の案内について）	御絵表所（黒印）		丑10月		1枚	木版刷

No.	資料名	差出人	宛名	年月日	1986年調査分	数量	備考
105	覚（飛檐昇進の冥加金5両の上納について）	礼敬寺（黒印）・隆明寺（黒印）・専称寺(黒印)・真覚寺・浄安寺	光専寺	天保10年亥３月４日		1枚	
106	覚（銀180匁の借請について）	北村市太夫（黒印）他５名連署	光専寺御納所	天保11年子12月		1枚	
107	御免書（紗綟子衣幷無金地合輪袈裟と花色地小紋白唐草緞子袈裟の免許）	下間大進法印（黒印）	肥前国佐賀郡寺井津光専寺新発意慧行	文久３癸亥年４月22日		1枚	
108	覚(銀200匁の借用について)	古井市左衛門（黒印）	光専寺様	戌12月		1枚	
109	飛檐先納金子控帳			天保10亥年		1冊	
110	覚（光専寺旦那2人の安龍寺担帳への加入について）	安龍寺（黒印）	光泉（専）寺	亥11月		1枚	
111	覚（銀187匁の借用について）	兵頭次郎右衛門（黒印）他5名連署	桂道	丑４月７日		1枚	
112	往来手形(僧侶１人の往還について)	松平肥前守内鍋嶋監物（黒印）	所々人御改衆中	卯９月７日		1枚	裏書に「光専寺南詢」の記述あり
113	証（身付願物用の金の請取）	出役掛リ法福寺（黒印）	肥前佐嘉郡寺井光専寺弟子洗心	嘉永４亥年12月20日		1枚	
114	覚（飛檐列座や御免物にかかる諸費用の内訳）	山本弥左衛門（黒印）	肥前寺井村光専寺様	嘉永元申年５月		1枚	
115	覚（貸金の元利内訳）	御貸附御用達所（黒印）	肥前国佐賀郡寺井村光専寺	(安政６年ヵ）未３月		1枚	嘉永元年、安政３年の記述アリ
116	覚（申入銀納入につき飛檐次席となり、水色日野直綴着用免許）	妙念寺他６寺	光専寺	寛政９年巳８月21日		1枚	No.64と関連カ 20ヶ年の内に本山へ上納の上で飛檐本座となる、とあり
117	十年口受	釈慈航（花押・朱印）		延享３丙寅年７月28日		1枚	
118	添一札（飛檐列座願のための金借用のこと）	願正寺殿門徒肥前国佐嘉郡寺井光専寺（黒印）南詢・門徒惣代忠太夫（黒印）・喜右衛門（黒印）	御本山御貸附所御役人御衆中	安政３丙辰年４月		1枚	
119	添一札（飛檐列座願のための金借用のこと）	肥前国佐嘉郡寺井村光専寺（黒印）東岳（花押）・門徒惣代松本伊太郎（花押）		嘉永元戊申年４月		1枚	No.69と関連カ
120	添一札（飛檐列座願のための金借用のこと）	願正寺殿門徒肥前国佐嘉郡寺井光専寺判南詢・門徒惣代忠太夫判・喜右衛門判	御本山御貸付所御役人衆中	安政３丙辰年４月		1枚	No.118の写、No.67と関連カ
121	奉拝借金子之事（金11両の借用証文）	肥前国佐嘉郡寺井光専寺判南詢・門徒惣代忠太夫判・喜右衛門判	御本山御貸付所御役人衆中	安政３丙辰年４月		1枚	
122	一札之事（本願寺に対する３ヶ条の遵守について）	肥前国佐嘉郡寺井光専寺南詢（花押）	下間少進殿他３名	安政３丙辰年５月		1枚	
123	覚（為重村の屋敷・畠地の永代売渡について）	売主浮盃鬱吉兵衛・為重村庄や	光専寺	享保11丙午年10月28日		1枚	
124	覚（為重村物成永代売渡について）	鬱忠兵衛（黒印）	光専寺	(享保11年）午10月28日		1枚	No.121と同紙に記述
125	奉差上実子請合一札（梅寛が梅山実子に相違ない旨の証文）	肥前国佐嘉郡寺井光専寺東岳（花押）	御本山御役人中様	嘉永元戊申年4月		1枚	

No.	資料名	差出人	宛名	年月日	1986年調査分	数量	備考
126	一札（金２両３歩の借用証文）	肥前国佐賀郡寺井村光専寺印法名（花押）・御境内仏具屋町証人松屋藤蔵	御本山御貸附所御役人衆中	安政３辰年５月		1枚	
127	添一札（飛檐列座願のための金借用のこと）	肥前国佐嘉郡寺井村光専寺（黒印）東岳（花押）・門徒惣代松本伊太郎（黒印）	御本山御貸附所御役人衆中	嘉永元戊申年４月		1枚	№119と同内容、控えヵ
128	覚（隠元・木庵・即非三幅対の寄付について）	千文（花押）	光専寺	寛政元年酉３月３日		1枚	
129	奉拝借金子之事（金11両の借用証文）	肥前国佐嘉郡寺井村光専寺（黒印）東岳（花押）・門徒惣代松本伊太郎（黒印）	御本山御貸付御役人衆中	嘉永元戊申年４月		1枚	
130	覚（光専寺旦那の圓通寺への加入について）	光専寺	圓通寺	酉９月		1枚	
131	覚（光専寺旦那の無量寺への加入について）	佐賀郡与賀無量寺	専光（光専）寺	丑２月		1枚	五カ所の黒印あり
132	真宗要語区説序			（享保元年）		1枚	
133	包紙	光専寺慶三	取次宮内所法眼			1枚	包紙のみ、「川副庄寺井村」と上書あり
134	光専寺墓地図	（光専寺）				1枚	道路・墓・川を色分けで記載
135	御書下写（親鸞相承について）			酉12月		1枚	
136	御免書（一代花色地小紋白唐草鈍子袈裟着用の許可について）	池永大隅介（黒印）三省（花押）	願正寺殿門徒肥前国佐嘉郡寺井村光専寺東岳	嘉永元戊申年４月13日		1枚	
137	祠堂利銀米利足請取帳	護命山納所		文政９戊年12月		1冊	№92・93と関連ヵ
138	包紙					1枚	「号□（光ヵ）専寺奉望　同法名」の記述あり
139	包紙					1枚	「肥前国佐賀郡寺（井脱）村光専寺南詢執事所」の記述あり